

2024 年 11 月 26 日

## 成績評価基準の明確化とシラバス関連様式の改訂について

教務担当会議

## 1. 趣旨

本学における教育の内部質保証の一環として、成績評価基準を明確化し、履修規程に記載する。それに伴い、シラバス様式を一部変更する。それに合わせ、現在の「シラバス作成上の注意」の内容を修正し、「シラバス作成要項」とする。また作成されたシラバスを、公開前にチェックする体制をつくる。

## 2. 改訂ポイント

### (1) シラバス作成要項

#### ① 全体構成

現在の「シラバス作成上の注意」の内容のうち、作成に直接関係のあるものだけを記載し、シラバス様式の項目順に説明する。

#### ② 成績評価基準の記載

シラバス中「科目の到達目標」の記入方法の箇所に、履修規定に記載されるものとおなじ「成績評価基準」を記載し、この基準に整合する到達目標とするよう促す。

#### ③ ディプロマポリシー (DP) との関係の記載

担当教員が設定する到達目標が、学部・学科の DP のどれに関係するかを「ルーブリック rubric」として記載する。

#### ④ 内容の確認に関する記載

作成されたシラバスが、公開前にチェックされることについて記載する。

### (2) シラバス様式

#### ① 「DP との関係」欄の追加

到達目標が DP のどれに関係するか○を付す欄を追加。

#### ② 「評価の基準及びスケール」欄の削除

履修規定およびシラバス作成要項に記載されるので、本様式からは削除。

### (3) シラバス原稿チェック項目

提出されたシラバス原稿は、教務担当会議で分担してチェックする。作業量を考慮し、最低限の項目にする。

|   |                                 |          |                          |               |          |          |  |
|---|---------------------------------|----------|--------------------------|---------------|----------|----------|--|
| [科目名]   |                                 |          |                          | [単位数]<br>2 単位 |          | [科目区分]   |  |
| [担当者]   |                                 |          | [オフィス・アワー]<br>時間:<br>場所: |               |          | [授業の方法]  |  |
| [科目の概要]   |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [科目の到達目標]   |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [ディプロマ・ポリシー (DP) との関係]                            |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| 学部  |                                 |          |                          | 学科            |          |          |  |
| DP1<br>○  | DP2<br>○                        | DP3<br>○ | DP4<br>○                 | DP1<br>○      | DP2<br>○ | DP3<br>○ |  |
| [学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]                         |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [教科書]   |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [指定図書]  |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [参考書]   |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [前提科目]  |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)                         |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]                         |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| [実務経歴]  |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| 授業スケジュール  |                                 |          |                          |               |          |          |  |
| 第 1 回   | テーマ(何を学ぶか):<br>内 容:<br>教科書・指定図書 |          |                          |               |          |          |  |
| 試 験   | 実施方法等:                          |          |                          |               |          |          |  |

|   |                                     |              |         |
|---|-------------------------------------|--------------|---------|
| [科目名]   |                                     | [単位数]<br>2単位 | [科目区分]  |
| [担当者]   | [オフィス・アワー]<br>時間:<br>場所:            |              | [授業の方法] |
| [科目の概要]   |                                     |              |         |
| [[授業科目群]・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] |                                     |              |         |
| [科目の到達目標(最終目標・中間目標)]                              |                                     |              |         |
| [学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫]                         |                                     |              |         |
| [教科書]   |                                     |              |         |
| [指定図書]  |                                     |              |         |
| [参考書]   |                                     |              |         |
| [前提科目]  |                                     |              |         |
| [学修の課題、評価の方法] (テスト、レポート等)                         |                                     |              |         |
| [評価の基準及びスケール]                                     |                                     |              |         |
| [教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望]                         |                                     |              |         |
| [実務経歴]  |                                     |              |         |
| 授業スケジュール  |                                     |              |         |
| 第1回   | テーマ(何を学ぶか):<br>内 容:<br>教科書・指定図書     |              |         |
| 第15回  | テーマ(何を学ぶか):<br>内 容:<br><br>教科書・指定図書 |              |         |
| 試験  |                                     |              |         |

青森公立大学 経営経済学部  
シラバス作成要項【改訂案】

教務担当会議

## 1. シラバス様式

## (1) 授業の方法

次のどちらかを記入してください。

- 講義、演習、実験、実習、実技のいずれかで実施する場合、該当する方法
- 講義、演習、実験、実習または実技を併用する場合、該当する組み合わせ

## (2) 科目の到達目標

成績評価基準によって学生の達成度を評価するための到達目標を記入してください。講義の進捗目標ではありません。当該科目により学生が獲得することを期待される能力について、具体的な項目を簡潔に記載してください。

## 成績評価基準

| 成績表示 | 評価基準        | 評価 | 定義                             |
|------|-------------|----|--------------------------------|
| A    | 80点以上       | 秀  | 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している |
| B    | 70点以上 80点未満 | 優  | 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している   |
| C    | 60点以上 70点未満 | 良  | 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している      |
| D    | 50点以上 60点未満 | 可  | 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している      |
| F    | 50点未満       | 不可 | 当該科目で定められた到達目標を、達成していない        |

### (3) ディプロマ・ポリシー(DP)との関係

学生による当該科目の目標達成が DP のうちどれに関係するか、該当するものすべてに○を付してください。  
ACB・教養・キャリア教育科目は学部の DP から、専門科目は学部の DP および学科の DP から選択してください。

#### 学部の DP

| DP1  | DP2   | DP3  | DP4  |
|--|---|--|--|
| 経営学・経済学分野における知識を体系的に学び、複雑化する現代社会を複眼的な視点で捉えることができる。 | その専門性を自己存在や社会・文化および自然に関する学びと関連させて深め、より統合的に把握された理解へと進展させることができる。 | 社会生活を営むうえで必要なコミュニケーションや情報リテラシー等の技能を身につけるとともに、地域社会の一員としての自覚をもち、自己を律し他者と協働して、地域社会の発展のために積極的に関わることができる。 | 得られた知識や技能を活用して、自らの課題を発見し解決しようとする姿勢を保持し、自分自身の生き方の根源を見つめつつ、生きることが学ぶことであるかのように、生涯にわたって学びを続けることができる。 |

#### 学科の DP

|         | DP1   | DP2  | DP3  |
|---------|---|--|--|
| 経営学科    | 市場はもとより、多様な環境の変化に適応するだけでなく、自らが戦略的に変革を目指し、実践できる人材                    | 組織と個人の関わり合いや、組織における複雑な人間関係の問題に焦点をあてながら、多人数の協働を確立し、維持・発展できる人材                       | 会計データを読み、資金の調達や運用に関わる財務上の問題を見出し、それに関する解決策を提示できる人材    |
| 経済学科    | 金融、証券の専門知識をもとに、各種企業、組織でのファイナンスの問題を解決できる人材                           | 行政や非民間部門における政策分析を行う能力をもつとともに、プロとしての評価や判断が的確にできる人材                                  | 企業経営、地域経済、国際経済等の様々なレベルで生起する経済問題を分析する能力をもち、それを解決できる人材 |
| 地域みらい学科 | 地域の基幹産業や地場産業等の経済活動領域において、新たな事業を創造し、複合事業の開拓を目指す、地域ビジネスの起業家、リーダーとなる人材 | 自治体、社会的企業、NPO 等の公共活動領域において、ビジネス感覚に満ちた政策立案、実行、新たな組織運営を目指す、地域行政、地域コミュニティ推進のリーダーとなる人材 |  |

### (4) 教科書

受講するために、学生による購入・用意が必要な書籍のみを記入してください。

### (5) 指定図書および参考書

講義に関連し、担当教員が学生に読むことを強くすすめる書籍を記入してください。記載された書籍は図書館で購入し、指定図書は指定図書コーナーに 10 冊程度、参考書は一般図書コーナーに 1 冊、配架します。学生への貸出期間は指定図書 3 日間、参考書 2 週間（レファレンス資料の場合は館内利用のみ）です。

現在入手困難な書籍は記入しないでください。他の図書館等で閲覧可能な場合には、閲覧方法を明記してください。

#### (6) 学修の課題、評価の方法

評価の方法は、可能な限り具体的に記入してください。

単位を認定するには、その授業に「出席」し、かつシラバスに書かれた到達目標に対する「到達度」が一定割合に達している必要があります。授業中の活動・貢献を評価に反映させることはできますが、出席の事実のみを「出席点」として点数化し、到達度に算入することはできません。「授業内活動」「授業への参加」「授業への貢献」を得点化して評価に反映させることはできます。出席だけすればよいと誤解されないような表現にしてください。

#### (7) 実務経歴

大学ウェブサイトのシラバス関連ページにある「実務経験のある教員等一覧表」に記載された教員が記入してください。その際「実務経験」欄の内容をそのまま転記してください。それ以外の教員は「該当なし」と記入してください。

#### (8) 授業スケジュール

期末試験の実施方法(筆記試験の実施、レポート課題の提出等)を、最下段の「試験」欄に明記してください。

成績評価を目的とした中間試験等のみの授業回を設けることはできません。理解度の自己確認やまとめを目的とした小テスト等を授業中に実施することはできます。

#### (9) その他作成上の注意

- ① Microsoft Word を使用し、空白欄が生じないように作成してください。
- ② 1 単位科目は 2 ページ、2 単位科目は 3 ページ、4 単位科目は 4 ページに収めてください。

## 2. 内容の確認

学生に公開される前に、提出原稿はすべて、内容が本要項に則しているかを教務担当会議で内容を確認します。その結果、修正を依頼する場合があります。

## シラバス作成上の注意事項【現行使用様式】

教務担当会議

### (1) 主な注意事項

- ・ Microsoft Word を使用し、空白欄が生じないように作成してください。また、原稿を提出する前に、各自でプリントアウト時の仕上がりをご確認いただき、印刷可能状態でのご提出にご協力ください。
- ・ ページ数について、1 単位科目は 2 ページ、2 単位科目は 3 ページ、4 単位科目は 4 ページに収めてください。
- ・ 「学修の課題、評価の方法（テスト、レポート等）」欄と「評価の基準及びスケール」欄は、より具体的な記載をお願いします。また、最下段の「試験」欄には、期末試験の実施方法（筆記試験の実施、レポート課題の提出、等）を明記してください。
- ・ 理解度の自己確認やまとめを目的とした小テスト等を授業回に実施することはできますが、評価のみを目的とした中間試験等を授業回に組み込むことはできません。
- ・ 複数名で担当する科目の場合、シラバスは一つにまとめて作成し、提出してください。
- ・ 提出されたシラバスは、大学公式ホームページ及び学内専用サイトへ掲載します。

### (2) 「授業の方法」欄について [様式 1 の 1 ページ目]

- ・ 「授業の方法」欄には、次のどちらかを記入してください。①講義、演習、実験、実習、実技のいずれかで実施する場合、該当する方法。②講義、演習、実験、実習または実技を併用する場合、該当する組み合わせ。

### (3) 「教科書」欄について

- ・ 教科書は、学生が受講するにあたって購入・用意を必須とする書籍のみを記載してください。また、シラバス内で「教科書」として指定した書籍は、必ず用意して講義に臨むよう履修者へアナウンスを行ってください。

### (4) 「指定図書」欄について

- ・ 「指定図書」は、講義に関連して担当教員が学生に読むことを強くすすめる図書のことです。シラバス内の「指定図書」に基づき、図書館で購入し（講義の規模により 1 3 冊）、指定図書コーナーに配架します。多くの学生が利用できるよう、貸出期間を通常（2 週間）より短く、3 日間としています。図書館に配架する都合上、現在入手困難な図書は記載しないでください。他の図書館等で閲覧可能な場合には、この限りではありませんが、閲覧方法を明記してください。
- ・ 学期中に追加したい場合は、所属するグループの選定委員にお申し出ください。

### (5) 「参考書」欄について

- ・ 「参考書」は、講義に関連して担当教員が学生に読むことをすすめる図書のことです。シラバス内の「参考書」に基づき、図書館で購入し（1 冊）、一般図書コーナーに配架します。貸出期間は 2 週間です（ただし、レファレンス資料の場合は館内利用のみとなります）。図書館に配架する都合上、現在入手困難な図書は記載しないでください。他の図書館等で閲覧可能な場合には、

この限りではありませんが、閲覧方法を明記してください。

学期中に追加したい場合は、所属するグループの選定委員にお申し出ください。

(6) 「実務経歴」欄について [様式1の2ページ目]

- ・大学公式ホームページ「[実務経験のある教員等による授業科目の一覧表](#)」に基づいて、シラバスの「実務経歴」欄を作成します。この一覧表は、  
<https://www.nebuta.ac.jp/for-students-for-graduate> に掲載しています。
- ・「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」に掲載されている科目では、一覧表の授業内容の列にある文章を、シラバスの「実務経歴」欄に転記してください。
- ・「実務経験のある教員等による授業科目の一覧表」に掲載されていない科目では、シラバスの「実務経歴」欄に「該当なし。」などと記入してください。

(7) 出席の扱いについて

- ・単位を認定するには、その授業に「出席」し、かつシラバスに書かれた到達目標に対する「到達度」が一定割合に達している必要があります。
- ・授業中の活動・貢献を評価に反映させることはできますが、出席の事実のみを「出席点」として点数化し、到達度に算入することはできません。
- ・「授業内活動」「授業への参加」「授業への貢献」を得点化して評価に反映させることはできます。
- ・出席だけすれば良いと誤解されないような表現にしてくださいようお願いいたします。

2024年11月26日

青森公立大学 経営経済学部  
シラバス原稿チェック項目【案】

教務担当会議

1. 科目の到達目標

「成績評価基準」の定義に沿って評価できる到達目標となっているか  
簡潔かつ学生にとってわかりやすいか

成績評価基準

| 成績表示 | 評価基準        | 評価 | 定義                             |
|------|-------------|----|--------------------------------|
| A    | 80点以上       | 秀  | 当該科目で定められた到達目標を、特に優秀な水準で達成している |
| B    | 70点以上 80点未満 | 優  | 当該科目で定められた到達目標を、優れた水準で達成している   |
| C    | 60点以上 70点未満 | 良  | 当該科目で定められた到達目標を、良好に達成している      |
| D    | 50点以上 60点未満 | 可  | 当該科目で定められた到達目標を、最低限達成している      |
| F    | 50点未満       | 不可 | 当該科目で定められた到達目標を、達成していない        |

2. 学修の課題、評価の方法(テスト、レポート等)

出席のみで評価される方法になっていないか  
簡潔かつ学生にとってわかりやすいか

3. 授業スケジュール

期末試験の実施方法(筆記試験の実施、レポート課題の提出等)を、最下段の「試験」欄に明記しているか  
成績評価を目的とした中間試験等のみの授業回を設けていないか